

草原の草花が、^{れきし}大昔の大地の歴史を語るとよ

春から秋にかけて、草原にさく色とりどりの草花。
 その中には、大昔、九州が大陸とつながっていたことを教えてくれるものがあるんだよ。
 中国に生えている植物が、阿蘇にも生えていることでそれがわかるんだ。



ユウスゲ、カワラナデシコ、オミナエシ・・・夏の草原は、色とりどりの花のステージ。

ぼくは、ヒゴタイ。大昔今の中国と日本が陸続きだったことがわかるよ。



オミナエシ

日の当たるスキの草原に生え、枝先に黄色い小花が散るように咲く。秋の七草。

7月中旬～9月中旬



ヒゴタイ

日当たりのよい草原に生え直径5cmほどのボール型でルリ色の独特の花を咲かせる。

7月中旬～9月下旬



輪地切り

野焼きのための防火帯づくり。あわせた長さは610kmともいわれる。暑い中の大変な作業。

8月下旬～10月



稲刈り

この時期、稲穂が実り、カルデラの中が一面黄金色になる。おいしい水で、おいしい米が育つ。

9月上旬

8月

2006年

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8 立秋	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23 処暑	24	25	26
27	28	29	30	31		

阿蘇
草原再生
 子供たちへ引き継ぐ千年の草原
 人と自然がつくりあげる、
 みどりの宝石!

日	月	火	水	木	金	土
					1 二百十日	2
3	4	5	6	7	8 白露	9
10	11 二百二十日	12	13	14	15	16
17	18 敬老の日	19	20	21	22	23 秋分の日
24	25	26 社日	27	28	29	30